

子どもの権利ポスター展

子どもの権利条例では毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」とし、子どもが参加する事業の実施などを通して、子どもの権利の普及啓発に取り組んでいます。

今年度は10周年記念イベントの開催とあわせて、子どもの権利をテーマとするポスターを募集し、たくさんのお子様たちから「一步一步、進めば良い。」「こまったときはすぐにたすけをよぼう」「のぞいてみよう！子どものこころ」などメッセージ入りの作品をいただきました。その中から選考委員会や子ども未来委員会・子ども議会のお子様たちの投票を経て、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、奨励賞14作品が優秀作品として選ばれました。



最優秀賞

「好きになる自由」

岩瀬 友音 さん
札幌平岸高等学校2年

優秀賞以上の受賞者への表彰式を、子どもの権利条例10周年記念イベントのステージで行うとともに、優秀作品は、子どもの権利の日を含む11月19日～25日までの1週間、アリオ札幌1階スペースで展示しました。

ポスター展では、子どもの権利の絵本「おばけのマルとすてきなまち」や子どもの権利の考え方を4コマまんがで紹介した「Kenri Book」のパネル展示も行い、連日、多くの方々に来場していただきました。

子どもたち一人一人が安心して暮らし、健やかに成長していくために、これからもみんなで子どもの権利について考え、子どもの権利を大切にしていける取組を進めていきます。

**優秀賞以上のポスター作品は、
2020年カレンダーに掲載して
学校などに配布します。
ぜひご覧ください！**

授賞式の様子



《受賞者のみなさん》

- 札幌平岸高等学校2年 岩瀬 友音さん (最優秀賞)
- 太平南小学校6年 市川 莉子さん (優秀賞)
- 稲積中学校1年 細川 倅歩さん (優秀賞)
- 屯田北中学校2年 高山 莉緒さん (優秀賞)
- 八軒東中学校3年 土田 敬さん (優秀賞)
- 札幌静修高等学校2年 田邑 胡春さん (優秀賞)

1 th

子どもの権利条例施行10周年

子どもにとって大切な権利

- ・安心して生きる
- ・自分らしく生きる
- ・豊かに育つ
- ・参加する

子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利

The Rights of the Child

ニュース

第21号
令和元年12月発行

子どもの権利条例10周年！ 10周年記念イベントで、「子どもにやさしいまち」についてみんなで考えました！

札幌市の子ども権利条例がスタートして今年で10年。11月17日(日)にはサッポロファクトリーアトリウムで、10周年記念イベントを開催し、子どもの権利の大切さについて広く知ってもらい、みんなで考える機会としました。

イベントは、夏の準備段階からたくさんのお子様たちに考えてもらい参加してもらいながら、開催することができました。

そして、巨大人形劇ピノキオの女神像が見守る少し変わったステージで、子どもたちの色々な活動発表が繰り広げられる楽しいイベントになりました。



- ポイント1** 札幌の子どもたちのいまを伝える
- ポイント2** 子どもたちがつくる子どもが主役のイベント！
- ポイント3** 子どもにやさしいまちってどんなまち？

ステージには、札幌で活躍するたくさんのお子様たちが登場。

学校の「生徒会」や放課後の子どもの居場所＝児童会館の「子ども運営委員会」、地域で子どもの体験や成長を支える「子ども会」、そして札幌のまちづくりを話し合う「子ども議会」のお子様たちが、それぞれの活動や提案を発表しました。

また、子どものための相談窓口「子どもアシストセンター」からは子どもが抱えやすい不安・悩みや、相談することの大切さについて話がありました。

子どもたちの熱演で最後を飾った「やまびこ座・こぐま座」の巨大人形劇ピノキオの上演とあわせて、色々な「札幌の子どもたちのいま」を紹介しました。

当日はステージ発表だけでなく、司会進行や出演者の誘導、会場案内でも子どもたちが活躍しました。

当初の準備段階から全体の企画・運営などに携わってくれたのは、小・中・高校生15名からなる「子ども未来委員会」のお子様たち。



子どもの主体的な参加や意見表明を体現するイベントとして、参加した子どもたちが後で「楽しかったな」「ちょっと成長したな」と思い出してくれることを願っています。

イベントでは、子どもの権利条例の紹介とともに「子ども未来委員会」のお子様たち自身が考えてまとめた「子どもにやさしいまち」を発表。

- ①個性を伸ばせる・チャレンジできるまち
- ②子どもの意見が尊重されるまち
- ③大人と子どもが交流できるまち
- ④安心して相談できるまち

来場者とのやり取りも交えて、子どもの権利についてみんなで考える機会としました。



子どもの権利条例10周年イベント

活動発表レポート(各団体)

イベントでの各団体の活動発表や上演の内容を紹介します。

①学校における子どもの取組 (藻岩中学校 生徒会)

子どもの活動発表は、学校を代表して藻岩中学校の生徒会からスタート。

学校行事や生徒会活動の紹介のほか、生徒それぞれが大切だと思う子どもの権利について、学校全体でまとめたランキングを発表。

一人一人の感じ方や考え方の違いを理解し、多様性を尊重する大切さに気づかせてくれる取組でした。



②児童会館子ども運営委員会 (いなづみ児童会館 子ども運営委員会)

市内200の児童会館全館に「子ども運営委員会」があり、子どもたちが利用ルールを考えたり、行事の企画・運営をしています。

いなづみ児童会館では子どもたちがアンケートをとって、幼児から大人まで楽しめるハロウィンパーティーを企画。

自分の考えが形になる嬉しさや仕事に責任をもつ大切さを伝えてくれました。



③子ども会 (山の手さくら子ども会)

市内約430の子ども会で、地域の子子どもたちがキャンプや祭りなど様々な体験活動に参加し、また、研修を受けてジュニアリーダーとして活躍しています。

発表では、行事や活動紹介のほか、バルーンアートの実演もあり、ステージ終了後のバルーンプレゼントも含めて、来場者を楽しませてくれました。



④子ども議会 (子ども議員)

子ども議会では、毎年子ども議員が札幌のまちづくりについて学び、話し合い、提案・意見表明などを行っています。

今年は①札幌市民以外から見た札幌市、②交通機関のマナーをテーマに、街頭でのアンケート調査や勉強会を実施しました。発表会では、活動の成果を発表したほか、来場者からも意見を聞きました。



⑤子どもアシストセンター (子どもの権利救済機関)

子どもが困ったときや悩んでいるとき、気軽に相談できる子どもアシストセンターについて、クイズや、相談事例の動画を交えて紹介しました。

また、子どもの権利救済委員から、子どもには、困ったときは一人で悩まず誰かに相談してほしいと、大人には、子どもが相談してきた時はよく耳を傾けてしっかり話し合ってもらいたいと、メッセージをお伝えしました。



⑥巨大人形劇「ピノキオ」 (やまびこ座・こぐま座)

フィナーレは巨大人形劇。やまびこ座館長が札幌に息づく児童劇・人形劇について紹介後、会場の巨大クリスマスツリー点灯を合図に劇は始まります。

子どもたち扮する動物たちの踊りや楽団の演奏のほか、5mの高さでそびえる女神とピノキオの掛け合い、ピノキオが人間の子どもに生まれ変わった喜びなど、迫力のパフォーマンスを披露しました。



～子どもにやさしいまちを考える～

子ども未来委員会 イベント舞台裏レポート

イベントの企画・運営を行った子ども未来委員会の子どもたちの活動や当日の舞台裏をレポートします。

イベントに向けてあれこれ準備

▶ 3まち子ども交流

子ども未来委員会の初日(8月1日)は、子どもの権利条例のある北広島市・奈井江町の子ともたちとも交流しながら、札幌の子ども・子育てについて学び、「子どもにやさしいまち」について話し合いました。

▶ イベントのチラシや司会シナリオ、発表の資料を作成

チラシの構成やデザインのほか「当日まで冷蔵庫にはっておいて」「来たら茶柱が立つよ」などちょっと変わったPRも考えました。役割分担をして、司会シナリオや発表資料に使う寸劇の動画も撮って、本番に向けたリハーサルも念入りにしました。



イベント当日には成果を発揮!

▶ 楽しくまじめに伝わるイベントになるように工夫しました!

司会や条例紹介の発表では、来場者や出演者とのやり取りもして動きのあるステージを工夫しました。当日、子ども会の協力でできたバルーンアートコーナーの紹介もアドリブでした。

▶ 裏方としてもがんばりました!

来場者へのパンフレット配布や案内のほか、札幌市長のエスコート、控室から出演者の誘導など裏方としても活躍しました。



子どもが考える子どもにやさしいまちってどんなまち? (子ども未来委員会)

子ども未来委員会の子どもたちが考えてまとめた「子どもにやさしいまち」の内容を紹介します。

子どもが考える子どもにやさしいまち

《個性を伸ばせる・チャレンジできるまち》

- 自分を好きになることが自信につながり、新しいことにチャレンジできる。
- 周囲に認められたときに成長を感じる。がんばったことを発表できる場があるといい。

《子どもの意見が尊重されるまち》

- まちづくりなど子どもに関わることは、子どもの意見を聞いてほしい。
- 大人や周囲がやさしいと安心して意見が言える。子どもも自分の意見をちゃんと言うことが大切。

《大人と子どもが交流できるまち》

- 色々な人と関わることで、子どもは成長できる。乳幼児や高齢者、大学生との交流の場所が必要。
- 地域の大人との交流は、子どもの毎日の安心にもつながる。

《安心して相談できるまち》

- 身近に、秘密が守られて、安心して相談できる場所があるといい。
- 子どもも自分の考えを言葉にしたり、友達同士で相談に乗って助け合うことが大切。

さらに、子どもも大人も笑顔で暮らせるように...

《子育てにもやさしいまち》

- 子育て中の大人にも元気でいてほしい。
- 赤ちゃんが泣いていても迷惑そうにしないなど、周囲の理解とサポートが必要。

《困ったときは助け合えるまち》

- 外国籍や障がいがある、勉強や人との関わりに困難を抱えている子がいる。
- お互いに理解し、助け合うことが必要。